

「大坂の陣と真田丸」の講演も

9月5日(土) 関西同窓会総会・懇親会

関西同窓会の第25回総会・懇親会は9月5日(土)、新大阪の大阪コロナホテルで開催されます。今年も関西に在住されている上田高等学校の同窓生ご参加のもと、相互の交流親睦を深めたいと思います。母校では2年間の任期を務められた若林前校長が退職され、4月から内堀新校長が着任されました。また、同窓会担当も前任の小宮山先生から、清水庸先生に代わりま

した。総会では新しい顔ぶれの先生方をお迎えし、母校の近況を伺いたいと思います。関西では大坂の陣から400年ということ、大阪市が中心となり昨年から関連するイベントが開催されていますが、来年、NHKが「真田丸」を大河ドラマで放映することになり、さらに盛り上がりそうです。

関西同窓会ではこの機会に総会で「大坂の陣と真田丸」をテーマに専門家による講演会を企画しました。講師は大阪城天守閣の跡部信(まこと)先生です。大阪城の歴史を理解し、また、来年のドラマをより深く楽しむためにも、皆さん是非会場へお越しください。

また、10月に行われる「大坂の陣の史跡めぐり」にも多くの皆様のご参加をお待ちします。

(関西同窓会長 石沢誠司)

上田高等学校

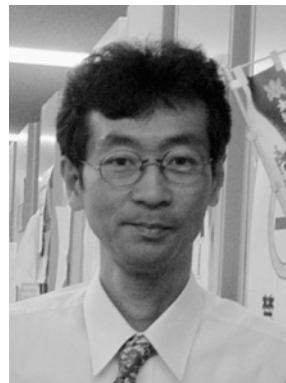
関西同窓会報

第41号

2015年(平成27年)7月17日(金曜日)



発行 上田高等学校関西同窓会
編集 同 広報委員会



《講演会》「大坂の陣と真田丸」

《講師》大阪城天守閣主任学芸員

跡部 信 先生

講師のプロフィール

1967年 東京都に生まれる
1991年 京都大学文学部史学科卒業
1993年 同大学院文学研究科修士課程修了 現在：京都大学博士
1994年 大阪城天守閣学芸員 現在：大阪城天守閣主任学芸員
【著書】『豊臣秀吉と大坂城』吉川弘文館 2014年刊

講師のメッセージ

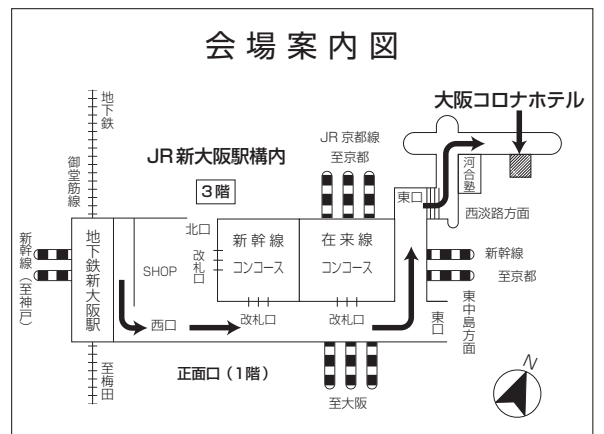
「新しい研究や考察を踏まえ真田丸の実像を探ります」

豊臣家と徳川家という二大権力の最終決着戦となり、戦国時代最後の大会戦となったのが「大坂の陣」です。慶長19年(1614年)10月～12月には「大坂冬の陣」、翌20年5月には「大坂夏の陣」が起こり、慶長20年5月7日に大坂城は落城し、翌8日に秀頼・淀殿が自害して豊臣家は滅亡しました。昨年は「大坂冬の陣」から400年、今年は「大坂夏の陣」から400年という節目を迎えることから、大阪城天守閣ではこの両年を「大坂の陣400年」イヤーと位置付け、展覧会をはじめとしてさまざまな事業を行い、

広く大阪の歴史や魅力に触れていただく機会にしております。このたび、上田高校関西同窓会の総会で「大坂の陣と真田丸」というテーマでお話する機会を得ました。真田丸は、大坂冬の陣で真田幸村が大坂城の出城として築き、徳川方と激闘を繰り広げたところで、来年のNHK大河ドラマの題名となったことから脚光が当たっています。はっきりした遺構が残っておらず謎が多い史跡ですが、新しい研究や考察を踏まえ、これまでに分かってきた実像をお話させていただきます。

◆第25回総会・懇親会案内◆

- 【と き】 2015年9月5日(土)
受付開始 10:00
定期総会 10:30～11:00
講演会 11:10～12:10
懇親会 12:30～15:00
【ところ】 大阪コロナホテル
大阪市東淀川区西淡路1丁目3-21 TEL.06-6323-3151
総会：2階215号室 懇親会：200D号室
【会 費】 会員 7,000円 初参加会員 5,000円
ご家族 5,000円 学生会員 3,000円
【アクセス】 JR新大阪駅 東口(西淡路方面口)より 徒歩2分





学校長 内堀 繁利(74期)

SGH指定とふるさと納税 ～着任の挨拶に代えて

今年度上田高校に校長として赴任しました、内堀繁利でございます。関西同窓会の皆様には、日頃から本校へのご支援・ご協力を賜り、衷心より感謝を申し上げます。私も同窓生、74期生として、水が浸み込む床、雪が吹き込む窓を完備した旧校舎で学びました。定年まで残り3年というタイミングで、長野県教育委員会から学校現場に転出し、「教員生活の集大成」のつもりで張切って勤務しています。学校ホームページに「校長ブログ」を書いていきますので、ぜひご覧ください。

さて、本年度入学式が4月4日に挙行され、入学した

た全日制323名、定時制31名の116期生は、20年間で2回目という、式当日に開花した古城の門前の桜の下でクラス写真に納まっています。また、真田信繁(幸村)が主人公のNHK大河ドラマ『真田丸』が来年1月から放送されます。上田から大阪へと舞台を移すことが予想され、ちょうど本校と関西同窓会のような関係だなぁと思っているところですよ。

そして、今年度一番大きな話題は、本校が、文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)に、5年間の指定を受けたことです。昨年のSGH「アソシエイト」校としての取組の実績と「いのちと健康」をテーマにした申請書の内容が高く評価されたと聞いています。生徒は1年の時から、21世紀型の学力を身に付けるべく、フィリピン・台湾などの国内外

「2 寄付金の活用を希望」

最後に皆様にお願いがございませう。「ふるさと信州寄付金(ふるさと納税)は、長野県にふるさと納税した」と、一定のルールで税金が控除される制度です。寄付の際、「寄付申出書」の

「上田高校の教育の充実のため」とお書きいただくのと、一定額が本校の教育の充実に向けての可能性があります。お礼の品も送らさせていただきます。お礼の品も送らさせていただきます。お礼の品も送らさせていただきます。お礼の品も送らさせていただきます。

国公立大学の現役合格者数 146名(長野県トップ)

進路指導主事 小岩井 秀樹

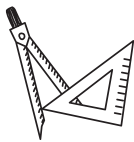
新教育課程初年度入試であった。就職状況の改善に伴い、「文理均衡」と「弱めの文高理低」の入試でもあった。本校では、昨年度と同様に「強気」、「安全志向」、「慎重」と、様々な生徒達がいた。進路室常駐担当として六年目になる者として、「今年も生徒はよく頑張った」と実感し、改めて本校生の潜在能力の高さを認識したのは、私一人ではなかった。

国公立大学に百四十六名合格。県内の高校と比較すると二位は長野高校

百二十九名、三位は松本深志高校百二十七名であった。旧帝大クラスの合格者は十三名と、一昨年と同じである。過去五年間さかのぼってみると、旧帝大クラスの合格者は昨年十三、一昨年十八、三年前十三、四年前十一、五年前十と、現役生の「合格力」が高まっていることがわかる。昨年度は、名古屋大学・二橋大学・東京工業大学だけで、合計六名、国公立大の歯学部にも一名、薬学部にも四名合格した。健闘したと言える。幅広い学力層を抱える本

進学状況(上田高校作成)

大学名	15年	14年	13年	大学名	15年	14年	13年
国立大学				一橋	3		
帯広畜産			1	横浜国立	3	6	5
北海道	5	2	3	上越教育	5	6	4
北海道教育	1			長岡技術科学			1
弘前		2		新潟	9	14	13
岩手	1		1	富山	11	10	8
東北	9	12	10	金沢	11	7	9
秋田	2	2	1	福井	1	1	
山形	3	2	1	山梨	3	2	2
福島			1	信州	40	41	42
茨城	1	4	3	静岡	2	4	2
筑波	2	6	6	名古屋	4	5	2
宇都宮	3	3	1	名古屋工業			1
群馬	4	7	6	愛知教育	1	2	
埼玉	10	11	4	三重			1
千葉	8	10	11	京都		1	2
お茶の水女子	2	2	1	京都工芸繊維	1		1
電気通信		2		大阪		3	2
東京	1	4		神戸	1	1	1
東京医科歯科	2		1	奈良女子	1	1	1
東京海洋	1	1	1	奈良教育	1		
東京外国語		1	2	和歌山	1		
東京学芸	2	3	1	広島			2
東京工業	1	2		島根	1	1	
東京農工	1	1		徳島	1	1	



大学名	15年	14年	13年	大学名	15年	14年	13年	大学名	15年	14年	13年	大学名	15年	14年	13年
九州		2	2	新見公立		1		上智	1	5	6	明治学院	11	15	17
福岡教育	1			公立大学計	32	46	36	昭和	2		1	明治薬科	2	2	2
熊本			1	私立大学				昭和女子	1	3	1	明星	1	3	3
宮崎		1		酪農学園		2		昭和薬科	6		2	立教	20	14	9
鹿屋体育		1		岩手医科			1	成蹊	12	8	11	早稲田	11	23	11
鹿児島	2			東北薬科	4	1	1	成城	4	5	7	神奈川	4	9	5
琉球	2			国際医療福祉	5	9	1	専修	7	17	9	神奈川工科	1	2	1
国立大学計	166	187	157	自治医科		2		大正		1	2	関東学院	2		1
公立大学				獨協医科		1		大東文化	3	2	2	昭和音楽			
宮城	2			群馬パース		3	1	玉川	2	4	1	桐蔭横浜			2
秋田県立			1	上武	1	1	1	多摩美術			4	フェリス学院		1	1
茨城県立医療				高崎健康福祉	4	6	3	中央	17	33	33	横浜薬科		1	
群馬県立女子		3	1	埼玉医科	1	1	1	津田塾	3	10	3	新潟医療福祉	1	1	
群馬県立県民健康科学	2			埼玉工業			3	帝京	4	4	4	新潟薬科	2	4	2
高崎経済	7	12	12	城西		1	1	東海	3	4	2	金沢工業	1	3	4
前橋工科				女子栄養	1	3		東京医科		1		北陸	2	7	1
埼玉県立	1		1	東京国際	2			東京医療保健		1		佐久	2	4	6
千葉県立保健医療			1	獨協	5	1	8	東京音楽		1		諏訪東京理科	1	2	1
首都大学東京	3	7	9	文教	12	15	8	東京家政		3	7	清泉女学院			2
神奈川県立保健福祉				神田外語			1	東京経済	1	5	7	長野		2	1
横浜市立	3	3	1	淑徳		1	1	東京工科		1		松本	1	1	1
新潟県立	3	5	1	千葉工業	3	3	2	東京工芸	1	2	2	松本歯科	1	2	
新潟県立看護	1	1		帝京平成	1			東京慈恵会医大				愛知医科		3	
長岡造形	1	1		東京情報				東京歯科			1	愛知			3
富山県立	1		1	青山学院	10	8	9	東京女子	2	3	7	中京		1	1
石川県立	1		1	亜細亜		2		東京女子医科		1	2	名古屋外国語		1	2
福井県立	1			大妻女子	5	2	4	東京電機	8	1	4	南山			2
都留文科	2	5	1	桜美林	3	2	2	東京都市		6	3	藤田保健衛生			2
山梨県立		1		学習院	3	4	3	東京農業	9	5	6	京都外国語	1		2
長野県看護			2	北里	10	10	9	東京薬科	8	4	5	京都産業		11	
岐阜県立看護	1		1	共立女子	1	1		東京理科	16	31	20	京都女子	2	2	4
岐阜薬科	2			杏林	4	3	5	東邦	8	3	3	同志社	6	12	9
静岡県立		3		国立音楽				東洋	24	14	8	同志社女子	1	2	1
静岡文化芸術		1	1	慶應義塾	6	8	3	日本	24	32	16	佛教		2	2
名古屋市立		1		工学院	3	4	3	日本社会事業			3	立命館	24	29	18
滋賀県立		1		國學院	9	14	8	日本女子	3	3	6	関西		1	2
大阪市立			1	国際基督教		1	2	日本女子体育			1	近畿	4	3	
大阪府立				国土館	1	1	2	法政	29	40	28	関西学院		2	1
神戸市外国語			1	駒澤	8	9	9	武蔵野	2	4	3	福岡		1	
奈良県立医科				実践女子	2	1	5	武蔵野音楽				その他	20	21	27
兵庫県立	1			芝浦工業	4	28	14	武蔵野美術			13	私立大学計	480	650	517
広島市立		1		順天堂		3	3	明治	29	59	24				

スーパーグローバル ハイスクール

SGH係 福井 克実

SGHアンシエイト校指定

上田高等学校は、新しい学びの体系を模索するため、文部科学省SGH事業に応募し、本年度「長寿県NAGANOから世界のいのち・健康を支えるグローバルリーダーの育成」をテーマとしてSGH指定校となりました。また長野県より、先進的なカリキュラムを開発する「21世紀型教育モデル校」に指定され、地域の伝統的進学校である上田高校の「新しい学校像」を歩むべく、以下のような多彩なSGH関連行事を展開しています。

キャン、佐久総合病院と連携し、国際理解教育を進めます。

④世界各国からの高校生、大学生、教職員の来校を積極的に受け入れます。

※実績：台湾、フィリピン、ニュージーランド、アメリカ

本校SGH活動の概要

①課題研究を全員が新しい教材「グローバルスタディII III」で学習します。

テーマは「いのち・健康」とインターフェイスする8つのテーマを生徒自らが選択して進め、その成果を、内外の課題研究報告会でプレゼンテーションします。

②海外研修を、1年選抜フィリピン、2年全員台湾研修旅行(海外修学旅行)で行(海外修学旅行)で

※昨年夏フィリピン23名派遣、今年春フィリピン9名派遣。

③JICA駒ヶ根・NPOアイ

海外研修

昨年夏、フィリピン(DENSYUS20アジア地域への青少年派遣事業)へ本校から23名が派遣され、高校、大学、公民館で日本の魅力を英語でプレゼンテーション、またフィリピンのグローバル課題を研修し、帰国後「フィリピンの光と影」というテーマで、数々のアクションプランをしました。JICA上田セミナー、信濃毎日新聞、松尾ゼミナール、[DENSYUS20東京報告会、大阪大学公共政策カンファレンスにて、広く報告会を実施しました。以下に大阪大学公共政策カンファレンスの生徒感想を掲載します。

「昨年8月フィリピン派遣に参加した私たちはフィリピンでたくさんのお話を学び、様々なことに気がきました。その経験を多くの人に伝えさらに深

海外研修

昨年夏、フィリピン(DENSYUS20アジア地域への青少年派遣事業)へ本校から23名が派遣され、高校、大学、公民館で日本の魅力を英語でプレゼンテーション、またフィリピンのグローバル課題を研修し、帰国後「フィリピンの光と影」というテーマで、数々のアクションプランをしました。JICA上田セミナー、信濃毎日新聞、松尾ゼミナール、[DENSYUS20東京報告会、大阪大学公共政策カンファレンスにて、広く報告会を実施しました。以下に大阪大学公共政策カンファレンスの生徒感想を掲載します。

「昨年8月フィリピン派遣に参加した私たちはフィリピンでたくさんのお話を学び、様々なことに気がきました。その経験を多くの人に伝えさらに深

「私はこれらの活動によって自信ができました。多くの人に自分の話を聞いてもらったり、プレゼンテーションを通して、発表することの楽し

めたいと思いい、テーマを「フィリピンを男女格差・経済格差より考察する」とし、課題研究と解決のための提言のプレゼンテーションを行いました。私たちは準備を重ね、今までで一番の発表ができたと思いいます。しかし、厳しい講評もいただき、高校と大学の学び、求められていることの差を実感し、もともと自分たちから世界の諸問題について学ばないといけないと感じました。また、本校卒業の大阪大学国際公共政策研究科竹内俊隆教授から指導いただき、考えを深めることができました。交流会では、全国の高校生も自分たちと同じくそれ以上に世界について考えていることがわかり、一緒に意見を共有し意見交換をすることで有意義な時間を過ごせました。」

本年度PTA総会の生徒スピーチより



大阪大学での発表

さを感じ、またやりたいと思うようになりました。単に国際交流ができたことだけでなくSGH活動により世界の抱えるグローバル問題に興味を湧き、視野が広がりました。そのため英語などコミュニケーションツールを身に付け、大学に行ってやりたいことが明確となり、学習やクラブ活動生徒会活動がんばられるようになりました。今、上田高校では手を伸ばせば世界と繋がるができます。私はこれらの活動を通して様々なことを得ました。まだ17歳ですが人生が変わったといっても過言ではありません。SGH活動に参加した人は、その活動によってさらに学校生活を充実させていきます。」

がはずれていたのを幸いに、野菜包丁で打ち割って焚き付けた。「ところで息子は」と言うと、十四・五枚も継ぎ合わせて作った布団にくるまって、素っ裸で肩をすくめて寒がっている様子。「大溝へ落ちて裸にされて寒い」と、泣きだした。着替えの着物もないようだ。

連れの男三人は悲しみが先に立って、帰る時、持ち合わせていた小金を出し合い、そっと茶碗にに入れて家を出た。亭主が後から追いかけてきて「どんなことがあっても筋の通らない金を貰うわけにはいかない」と言って、投げ捨てて帰って行った。

仕方なく三人はその金を拾って戻り、二、三日してから人手を借りて利左衛門の女房に届けさせたところ、すでにその一家は田舎へ立ち退き空き家になっていた。その行く方はわからない。三人ともにこれを悲しみ、「思えば女郎買いも迷いの種だ」と、話しあって遊びをやめてしまった。

遊郭で豪遊した男の没落物語

西鶴は『好色一代男』でデビューし、続いて『好色五人女』など数々のベストセラーを出しますが、その舞台の中心の一つは遊郭で遊ぶ裕福な男と、そこで働く遊女でした。しかし晩年の西鶴は、華やかな遊郭の世界からドロップアウトした人々を描いています。

この話の特徴は、かつて遊郭で豪遊した男が没落して極貧状態で働きながら家族と暮らしていることです。それは子供に着物も買ってやれないという哀れな暮らしであるが、夫婦の絆はしっかりしており、男は昔の自分を恥と思っても、今の自分は恥と思っていないのです。

この遊女だった妻が立派です。ここは重要で、西鶴の人間を評価する真実心が現れています。文楽の話の中にも「遊郭に来る女に、親孝行や夫思いでない女なんか一人もない」という遊郭の主人の言葉があります。また、茶を沸かす薪がなく、仏壇の扉を割って薪にするのは、たぶん謡曲の「鉢木」でしょう。「割ったのもかしこし」で、妻の機転がさらに分かります。力仕事のできない利左衛門はこの妻と子のために、ポーフラ取りの仕事をして稼ぐウソ偽りのない暮らしなのです。実は、西鶴は主人公の利左衛門と、その妻に充分敬意を表しているのです。

浅い読み方では、いまだにプライドだけは高い頑固な男の話として、遊郭遊びのなれの果てを忠告する教訓談ということになります。もしこの話が、夫婦がふつうの貧乏生活ができていなるなら、どうでしょうか。普通の幸せな夫婦の話に終わってしまい、何も面白くありません。この話は教訓談と思わせて、分かる人には分かるレベルを狙っているのです。

格差社会脱出の新しい生き方

では、なぜここまで極貧なのか、はっきりしているのは元禄時代にすでに起こっていた、西鶴が常に描写してきた貧富の差の拡大です。西鶴は、「もはや資金のあるものしか儲けられない経済停滞状態が続いており、貧乏人はいくら働いても借金の利息に追われ、這い上がれなくなった」と書いています。

貧富の差の拡大は、西鶴にとって、それ自体が問題ではなく、その中で人の生き方がテーマになっていたことが、彼の先見性です。つまり、格差社会脱出の人間の新しい生き方を模索しようとしていると考えられます。だから利左衛門もどこかへ脱出しました。

有名な『世間胸算用』は、大みそかの大阪の貧乏人がどうして年を越すか、その苦労を集めた短編集で、類例が世界にありません。それは、西鶴のような元商人が作家になったケースが少ないからです。西鶴は芭蕉のような上品な文学者ではない。芭蕉は下品な題材を文学に取り上げることが嫌いましたが、西鶴は好みました。

川端康成は同じ大阪人として西鶴を高く評価して、「自分の知らないことだから書けない、知っていたらああいう世間まっただ中の話も書きたいが、自分にはその能力がない。西鶴はすごい」と言っています。西鶴はまさに元禄時代の大阪の真ただ中で生活したからこそ、大阪の人々の暮らしを生き生きと描写できたのです。

文化サロンを拝聴して



尾崎忍(76期)

NPOなにわ創生塾理事講師の山下孝夫氏が、主に西鶴と文楽への想いを語ってくれた。絶筆「西鶴置土産」を参加者と共に読みつつ解説されたが、西鶴の才能と人間性が熱く伝わり、他の作品には是非触れてみたい衝動に駆られました。また、文楽の衰退を嘆かれ、様々な作品を取り上げて、独特の声色で演じて魅せながら、復興への熱い想いを話されました。上方芸能を通じて大阪を元氣にと語る山下氏の力強い姿から勇気ももらいました。

第8回 文化サロン

3月7日(土)

井原西鶴と大阪文化 ～大阪が育んだ偉大な文豪～

上田高校関西同窓会の第8回文化サロンは、平成27年3月7日(土)、大阪市中央区の大阪産業創造館で20名が参加して行われました。テーマは「井原西鶴と大阪文化」で、講師は、島之内芸能文化協会の山下孝夫先生。西鶴の代表作の一つ「西鶴置土産」の中の一編を実際に読みながら、大阪の文化が育んだ偉大な文豪についてお話を伺いました。



お話される山下先生

井原西鶴と大阪文化

～『西鶴置土産』の作品を読む～

島之内芸能文化協会 山下 孝夫 先生

研究者が少ない西鶴

井原西鶴は世界的に認められている日本の文豪です。日本で世界に認められているのは、何とんでも紫式部と芭蕉・西鶴・近松です。しかし、この中で西鶴の研究者が少ないのです。西鶴の文章は難しいというか、飛躍と連想が次々にあり、また博識で当時の専門的教養がふんだんに散りばめられて、どんどん話が進んでゆくから、元禄時代に詳しくない現代人にはついてゆきにくい。だから注釈なしでは細部にわたる面白さが分からないのです。



井原西鶴(『新日本古典文学全集 井原西鶴』小学館より)

亡くなった藤本義一さんが、学者以外に西鶴を論じる人が非常に少ない、西鶴は商売人で町人で、しかも大阪の奇人変人だから、大阪以外の人には理解できないところがあると言われておられ、東京の西鶴研究者も同感らしいのですが、大阪で、しかも民間で西鶴を研究している人は現在ほとんどないのが非常に残念です。

西鶴の作品を読む

今日は、講演としてはいくつも趣向が考えられますが、実は原文を読もうと思っています。西鶴は別に波乱万丈の一生を送ったわけでないし、第一、伝記がほとんど分からない。

1642年(寛永19)大阪で生まれ、若いころから俳諧が得意で一昼夜の間に発句をつくる数を競う矢数俳諧で有名になり、41歳で浮世草子の第一作『好色一代男』を出版し作家に転身、1693年(元禄6)52歳で死ぬまでの12年間に膨大な作品を書いたことくらいしか分かっていません。また、若いころ稼業をついで商売をしたようですが、どんな仕事なのか自分については何も語っていません。

だから西鶴を知るにはまず作品を読んで、その内容を知るのが一番です。幸い、西鶴の作品はほとんどが短編です。好色一代男のような長編でも、簡単なエピソードをつないだ集まりです。そこで今日は短編の原文を読んでみようと思います。

で、何を選んだかと言うと、西鶴の遺作集の『西鶴置土産』です。理由は西鶴の特徴が盛り込まれている面白くてレベルの高い総合的な作品だからです。そこで『西鶴置土産』の代表作を読んでみましょう。「人には棒振虫同然と思われ」「大金の抜き残し」の二つが傑作ですが、本日は時間の関係で、前者の「人には～」を読んでみます。

人には棒振虫同然と思われ

〈講演では原文を読みつつ解説されましたが、ここでは原文の要約を紹介します〉

上野の黒門から池の端へ向かって行くと、金魚を売る有名な店がある。生簀を70～80も並べ豪華な金魚をたくさん飼っている。そこへ身なりの卑しい男が小桶を持ち、この金魚屋にやってきた。小桶の中は餌の棒振り虫(ポーフラ)で、一日仕事で取り集めたのを僅か銭25文で売って「また明日持って参りますからよろしく」と、下男に言って帰って行く。実はその男、かつて利左衛門といわれた大尽であった。

この様子を見ていたのは、かつての利左衛門を知る3人連れの男。一人が近寄り、「友達仲間がお前をととても懐かしがっている。こんなひどい暮らしをしないよう、これからは我々が援助して気楽に暮らせるようにしてやろう」と、言ったところ、利左衛門は「女郎買いの行く末がこうなるのは当たり前で、たいして恥ずかしいことじゃない。皆さんのお世話にはならないつもりだ。久しぶりに会ったが、また重ねて会うこともあるまい。一杯の茶碗酒でもさしあげよう」と言って、近くの茶屋に腰掛けて「これっきりだ」と、棒振り虫の代金25文を投げ出した。

この銭は、家にいる妻子が晩飯の支度を急ぎ、鍋を洗って待っている筈の金なのに、少しも気後れしないその気持を察して、みんな涙に袖口を濡らして「どうだろう、お前の家に行って昔話をしながら酒を飲んだら、いちだんと楽しいことだろう。今の内儀さんはきっと吉州(女郎の名)だろうが、よい仲間い」と言うと、「この女郎のために、こんなに落ちぶれてしまったのだ。だが女郎にも誠のあることがわかって、四年前に男の子が生まれ、その子が、とと様・かか様というのを生甲斐に今日まで暮らして来た」と利左衛門は夢のように話す。

利左衛門の家に着くと、「まずお茶を」と言ったが薪がない。すると女房は、仏壇の扉



『西鶴置土産』より

山極勝三郎先生の志を継いだ人々

48期 関口貞雄

前号で、山極勝三郎先生の業績を紹介させていただいた。「上田郷友会」会報の創刊号(明治十八年(一八八五)二月発行)に掲載された「緒言」(創立趣意書)に励まされて志を継いだ人々は多数いるが、代表的な三人の医学生をご紹介します。

対米開戦に反対し左遷

金井 章次

(上田中学4期)



の徳王(西域部族出身の独立運動家と日本政府の施政方針の違いで苦悩し、国際連盟勤務の経験から対米開戦に反対したことから二年半で交替、左遷された。

敗戦で帰国し、馬場町の御典医、金井医院の旧居に居住したが公職追放となり、病身でもあったので、追放解除後、中央での戦後の復活は成らなかった。「信濃毎日新聞」等に随想を時々執筆し、ステッキをついた散歩姿が時々見かけられた。金井が大東亜共栄圏の片棒を担いだ国粋主義者と思っていたが、実像はかなり違ったことを知り、見直して安堵した。

近代公衆衛生の父

勝俣 稔

(上田中学8期)



勝俣英吉郎の長男稔(一八九一年―一九六九年)は山極先生を慕って医学研究を志し、東大医学部を卒業後は父親の医院を継がないで北里研究所へ入った。慶大医学部助手に転じ、内務省に入つて医務官となった。

終戦後は厚生省の公衆衛生局長となって連合国防協会理事長に就任した。山極先生が晩年結核を患って苦しんだのを間近に見て、その撲滅に尽力した。更に厚生大臣を指して政界入りのため衆議院に立候補した。

当時は中選挙区制度で、佐久、小諸、小県郡、上田市が一選挙区で、佐久には井出一太郎、小諸は小山邦太郎、小県郡に羽田武嗣郎(羽田孜元首相の父)、上田市には小林運美(24期)、鷲沢与四二(1期)が競い合っていたので二回落選し、参議院に鞍替えをして当選を果たした。外務政務次官を務めたが、厚生大臣の夢は叶わず昭和四十四年(一九六九)に没した。因みに兵庫県選出社会党参議院議員だった松沢兼人は14期の卒業生である。

文壇人を療養所で治療

正木 不如丘

(本名 俊二)



郎が上田藩士であったので上田市にあった。父が養子入りを世話した縁で山極先生を尊敬し、志を継ぐため東大医学部を目指して入学し、卒業後更にパストゥール研究所(パリ)で学び、帰国後慶大医学部助教授となった。諏訪の小学校で島木赤彦先生(後に俳人として有名)に教わり、文学に興味を持つていたので、余技として小説「木賊の秋」、医療随筆を書いて発表した所、評判となり、大正文壇の人気作家の一人となった。

やがて慶大医学部の内に紛に嫌気がさして大学を辞任し、蓼科高原に開設された結核治療専門の富士見高原療養所長となった。これも結核に苦しめられた山極先生の影響を受けたものであった。余技の文学活動はその後も続き、その収入の大半は療養所の運営経費に充てられたと云う。文壇人との交流から結核に侵された文壇人を自分の療養所に収容して治療に当たった。



北里の推薦で満鉄衛生部に転職し、後に満州国の官吏となって衛生行政の責任者となった。満州青年連盟理事長代理、間島省長を歴任し、新たに誕生した蒙古聯合自治政府(内蒙古の日本傀儡政府)の最高顧問となった。この時若き日の大平正芳が大蔵省から派遣されて部下として働いた。主席

正木不如丘(まさきふじよきゆう、一八八七年―一九六二年)は、山極先生の変則中学時代の恩師正木直太郎の長男で、長野生まれの諏訪育ちであったが、本籍は父直太

製作して大ヒットとなったのは記憶に新しい。大正ロマンを象徴する人気画家竹久夢二とは東京在住時から親密な交友があり、夢二は一時正木宅に居候をしていたこともあった。夢二が欧州から帰ってから結核が進み、心配した正木が療養所に招き入れて治療に当たったが既に手遅れで、正木に看取られて息を引き取った。

三人目の結核療養患者は大正文壇の人気作家久米正雄であった。久米は上田市出身で、父は「御真影焼失事件」の責任をとって自決した小学校長であった。父の死後母の故郷福島県へ帰り、安積中学を経て一高、東大文学部を卒業した。夏目漱石門下となり、芥川龍之介、菊池寛等と知り合い、文壇の流行作家となった。「父の死」を書いて父の自決に至った周囲の状況を批判的に描いたので、故郷の上田市とは一線を画していた。しかし同郷の正木不如丘とは親交があり、結核を患った時は富士見高原療養所で正木の世話になった。この経験を「月よりの使者」(三回映画化された人気小説)に登場させた。

会費納入にご協力をお願いいたします。

関西同窓会は皆さまの会費で運営されています。納入にご協力をお願いいたします。会費未納の方が納入される場合は、過去に遡る必要はありません。納入時点の会計年度からで結構です。例会にも気軽にご参加ください。

会費納入の方法

- ①年会費 = 1人2千円
- ②特別会費 = 1口5千円以上。任意ですが、ご支援いただける方はよろしくをお願いいたします。
- ③振替方法 = 同封の郵便振替用紙をご使用ください。複数年の納入も申し受けます。

秋の文化交流会

大坂の陣400年・真田丸関連史跡めぐり

来年のNHK大河ドラマは堺雅人主演による「真田丸」に決まりました。秋の文化交流会は、この念願の大河ドラマ「真田丸」の舞台となる大阪城、並びに天王寺区内に点在する真田丸及び真田幸村関連史跡を見学いたします。皆さんふるってご参加ください。

- 日時** 平成27年10月31日(土) 9時50分(時間厳守)
- 集合場所** 大阪城 大手門前(幹事が六文銭の幟旗を立てています)
(交通案内) 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目駅」から徒歩8分
京阪電車・地下鉄谷町線「天満橋駅」から徒歩10分

- 行程**
午前：大阪城内および天守閣見学、のちタクシーで移動
昼食：玉造すし半(予定)にて会食、および懇親
午後：真田丸関連史跡散策(真田丸に近い三光神社、同社内の真田幸村銅像・真田の抜け穴など)、のちタクシーで移動
真田幸村関連史跡散策(幸村布陣の茶臼山、幸村終焉の地・安居神社等)

- 解散場所** 安居神社(天王寺区) 午後4時頃
- 会費** 4,000円(昼食代、大阪城天守閣入場料、移動タクシー代含む)
- 解説** 大阪城および天王寺区ボランティアガイドが解説します。
- 参加申込** 同封チラシの申込書またはメールで9月15日(火)までにお申込みください。
E-mail : pretrejean@nifty.com TEL : 0745-53-1237(武舎 一夫)



大阪城



真田丸に近い三光神社

上田高校は、SGHプログラム初年度の昨年度はアシエイト校であったが、本年度はSGH校になっている。なお、蛇足ではあるが、日本の教育を最終的に司る文科省ですら、極めて安易に英語表現を用いて日本語以外の名称を用いることは、ゆゆしき現象であるとい個人的には感じている。

このカンファレンスは、大学側が高大(高校と大学)連携と呼ぶプログラムの一環で、文科省からSGH(スーパーグローバルハイスクール)に指定された全国の高校のうち20校が参加し、いくつかの分科会を設けた大規模なものである。

大阪大学国際公共政策カンファレンス(初回)が開催された。そこに、母校である上田高校が参加した。小職の所属研究科主催の発表会であり、また関西同窓会より依頼もあつたので簡単に報告をしたおきたい。

大阪大学国際公共政策カンファレンスに上田高校生が出席 68期 竹内 俊隆(大阪大学)

女生徒4名が発表

本題に入ると、上田高校は「フィリピンのグローバルイノベーションを男女格差経済格差より考察する」という題目で、女生徒4名が発表した。昨年度実施した、フィリピンへのスタディツアー(この表現は一般的な用語になっている。念のため)に基づく報告である。それなりの資料を活用して、深みのある研究発表にしようとする意欲が感じられた。

日頃、大学生や大学院生の発表を日常的に聞いて議論しているものからすると、やはり突っ込み不足感はあるが、この発表が今後の研究への興味の端緒となり、他の高校生の発表を聞いて刺激を受け、それを母校に持ち帰ってくれば大成功であろう。

ところで、引率した福井先生によると、この種のプログラムへの参加は女生徒が大抵そうである。現に今回の発表も女生徒たちがかりであった。男子の消極性を嘆く前に、こうした女生徒の積極性を生かさないと手はない。

彼女たちも、ある指標を用いて、フィリピンの方が日本より男女格差が小さいと論じていたが、彼女たちの能力を生かして将来、社会で活躍してもらうことこそ、今後の日本に必要なことであろう。



発表した生徒たちと竹内さん(左から3人目)、右端は引率の福井先生。

信濃路 点描

映画の街 上田

ロケ地としての上田
降水量が少なく、晴天日数が多い上田は、映画の撮影にも適している。東京からのアクセスもよく、ロケ地としての上田は、時代もから近代まで幅広く場面を提供してきた。ここ上田で数多くの作品が生まれている。上田の街をそんな目で歩いてみよう。

「晴天の霹靂」

駅から歩いて太郎山方面に向かっていく。少し行くと、右に本町の通りがある。ここを進むと上田映劇が左手に見えてくる。その映劇の前を、2014年劇団ひとりが東京上野花やしき通りに再現し、昭和のノスタルジーに引きこむ芝居小屋に変身させた。

「犬神家の一族」

本通りにもどり、さらに太郎山方面に向かっていくと、左手に旧北国街道、柳町が見えてくる。ここは、1976年と2006年に市川崑監督、石坂浩二主演で30年前と同じコンビで公開された「犬神家の一族」に使われた通りである。現在の柳町は石畳で旧北国街道のおもむきを漂わせ、観光客に人気のスポットに

「たそがれ清兵衛」

柳町から、紺屋町をとり新町へ、しばらくいくと、矢出沢川沿いに石垣がある。2002年、山田洋次監督、真田広之主演、「たそがれ清兵衛」の河原の決闘シーンに使われた。この画面にでてくる石垣は、上田城の石垣と同じ素材でできていて、映画の設定にぴたりと合っている。この決闘が物語の重要なシーンであり、この場所がさらに盛りあげた。

今年も上田地域が舞台設定となっている「おかあさんの木」という作品が公開

なっている。ほかに、上田蚕種、国分寺などが使われた。
田がある。
〔古城の門〕
編集副委員長 市川泉



上田映劇 「青天の霹靂」 昭和48年の浅草を再現



柳町 「犬神家の一族」 金田一 耕助：石坂浩二



矢出沢川 「たそがれ清兵衛」の河原の決闘シーン